

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

＜学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」90%以上を維持（R1:86%、R2:92%、R3:90%）＞

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む）

- ア 正確なアセスメントを行う
- イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
- ウ 児童生徒が自発的・主体的に学習できる環境づくりを行う
- エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
- オ 小中学部からのキャリア教育を推進する
- カ 時間割・シラバスを再編する
- キ 小学部・中学部・高等部の「個別の指導計画」を統一様式に改訂する

(2) 時代にマッチした教育理論を構築する

- ア 「自立活動」を再考する
- イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う
- ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開する
- エ ICTを活用した取組みを推進する
- オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- カ 防災に努める

(3) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ 経験の少ない教員を支援する
- ウ 将来の管理職候補を育成する

2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均)85%以上を維持（R1:80%、R2:86%、R3:84%）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア 年度の早期に信頼関係を構築する
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- ウ 保護者から学ぶ

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア あいさつ運動を展開する
- イ きれいな地域づくりに貢献する
- ウ 就学前施設と連携する
- (3) よりわかりやすくスピーディーな情報発信を行う

- ア ほかしなしの情報発信を行う
- イ 通学バスの位置情報を提供する

3 働き方改革 ＜学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R6；65%（R3新設；58%）＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア 適材適所の人事配置を行う
- イ 学びあう雰囲気を作り出す

(2) 業務の効率化・平準化を行う

- ア デジタル化を推進する
- イ ペーパーレス化を推進する
- ウ 物品の管理・整理方法を見直す
- エ PC内の構造化と仕事の見える化を行う
- オ 評価の記載や確認の効率化と話し合いの充実化を図る

(3) 業務推進体制を再構築する

- ア 首席を学校経営の要として配置する
- イ 校務分掌の配置人数を見直す
- ウ 各部署が学校経営に自律的に参画する

4 地域支援 ＜相談実施後の「訪問相談・来校相談アット」における肯定的評価 90%以上維持（R1:90%、R2:90%、R3:90%）＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「研修サポート」を行う

- ア 「支援教育公開講座」を行う
- イ 研修講師の派遣を行う

(2) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「相談サポート」を行う

- ア 悩みを共有し「KITADE」を活用しながら実践のサポートを行う

(3) 学校全体で地域支援を行う

- ア 「登録相談員」による地域支援を行う

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 4 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 結果の概要 保護者対象のアンケートでは、今年度は16項目で実施した。新設を除く15項目に関しては、昨年度と同様の内容で行った。回収率については昨年度の80%に比べると2ポイント増加した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が4項目あった（昨年度より1項目減）。また、新設「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の項目以外で、5%以上の増減が3項目あった。なお、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、79.25%である（-4.4ポイント）。</p> <p>教員対象のアンケートでは、昨年度と同じ合計24項目となっている。回収率は、全体としては98%と昨年度より-1ポイントとなっている。回答結果については、大きく変化の見られた項目（5ポイント以上）が3項目あった。なお、「行政対象」のアンケートは、「教職員対象」を「教員」と「行政」に分けた12項目で実施し、教職員全体として合算している（これまで行政の回答の多くは「E:わからない」を占めており、「行政対象」の12項目を作成している）。教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、75.3%（+0.5ポイント）であった。</p> <p>2結果と分析 ☆以下の文書中「〇%」については、注釈がなければ各項目の肯定的意見の割合（回答A%+B%）となる。また「±〇ポイント」は、昨年度と比較した数字になる（例：昨年度80%→今年度83%の場合、+3ポイント）。</p> <p>○学校に対する意識に関するもの 保護者は「1：子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」の項目で81.3%（-1.5ポイント）と、昨年度と比べると若干減少している。さらに、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう取り組んでいく。</p> <p>○学習指導・教育活動に関するもの 保護者項目「4：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている（感じている）」は、71.6%と-5.2ポイントとなった。また、同項目で「わからない」と回答している保護者が21.9%（昨年度より7ポイント増）おられることから、お子様の授業の様子がよりわかるように、学校と家庭と共有できる取り組みが必要である。</p> <p>○児童・生徒指導に関するもの 「2：学校の児童生徒指導の方針に共感できる」について、保護者からは88.1%（-1.4ポイント）と若干の減少はあるが、一定の評価をいただいている。また、「6：運動会、学習発表会や校外学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいように工夫されている」では、93.9%と肯定的意見が90%以上となっている。</p> <p>○情報提供に関するもの 「5：学校は、教育情報について、提供の努力をしている」は、87.4%（-0.6ポイント）、「13：学校はホームページや緊急連絡システムを通して、情報をわかりやすく発信している」では、91.7%（-2.7ポイント）となっている（教職員96.2% +2ポイント）。自由記述からは、学校での普段の様子のさらなる情報発信や、わかりやすい文面を求める声がある。</p> <p>○学校組織に関するもの 教職員項目「1：学校の教育活動や教育計画の作成にあたって、教職員で話し合っている」では、肯定的意見が82.1%（-1.9ポイント）となっている。個別の指導計画・支援計画に関しては、「21：作成」や「22：開示し、説明」というそれぞれの項目で、教職員の肯定的意見が91.0%（+1.9ポイント）、95.5%（±0ポイント）と90%を維持している。また、教職員の「2：教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている」が75.0%（-1.3ポイント）、「3：教育活動にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」では、79.5%（±0ポイント）と維持している。</p> <p>「コンピューター等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」が93.6%（3年間で+17.5ポイント）であり、実際授業等の中で、ICT機器を活用する機会が年々増えている。しかし一方で、新設の保護者項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している」では、肯定的意見が34.5%、「わからない」が54%となっている。学校の取り組みの情報発信とともに、さらに校内での有効な取り組みの共有や、効果的な活用についての研修などを進めていく。</p> <p>「13：教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、学校経営に教職員の意向が反映されている」については、昨年度からさらに下がり44.9%（-4.5ポイント）である。また、「24：学年・学部・分掌において、業務の効率化や平準化を行っている」では55.1%（-2.6ポイント）とこちらも低い。業務の効率化や平準化については色々な場面で進めているが、実感まではいっていない様子である。これらの項目には複数の要素が盛り込まれているため、評価が低い原因については他のアンケート等で確認をしている。現在は校務分掌の分担の見直し等も進めている。</p> <p>「17：研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」は、54.8%（-5.8ポイント）となった。外部での研修が戻りつつあるが、共有の場面は以前に比べると少ない。一方で、「16：経験の少ない教職員が成長していけるよう校内研修等、工夫がされている」が62.2%（3年間で+8.7ポイント）と少しずつであるが改善されてきている。</p> <p>○新設の項目について 新設の保護者項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している」では、肯定的意見が34.5%、「わからない」が54%となっている。学校の取り組みの情報発信とともに、さらに校内での有効な取り組みの共有や、効果的な活用についての研修などを進めていく。</p> <p>○その他、特記事項 昨年度新設された保護者項目「15：学校は地域とのつながりや交流の機会を設定している」では、+6.5ポイントの69.4%となっている。コロナ禍でできていなかった交流等が少しずつ再開し、またこれまでなかったオンラインでの交流も実施している。今後、5類への変更に伴い、活発な交流教育を推進したい。</p>	<p>【第1回 7月14日】</p> <p>●防災への取り組みについて ・教員側だけではなく、子どもの取り組みが大事。防災備品を子どもに用意させる、ハザードマップを調べる学習、校内の危険箇所の確認などの授業が想定される。子ども・保護者の思いや考えを防災教育に反映していくことが大切。 ・全体シミュレーションを極寒の時期に実施した後、カイロの備蓄についてPTAに協力依頼があった。建物に入れない場合は、テントの備蓄も必要ではないか。毎年少しずつ備蓄物品を購入していくとよい。 ・保護者迎えができない場合、教職員も帰れないので、そこも考えていかなければいけない。 ・合理的配慮の観点に入っている、命を子ども自身が自分で守れる環境をつくるのが一つのポイント。学校として防災の環境を作るだけではなく、子ども自身が防災について学ぶ機会をつくるのが重要。</p> <p>●経営計画について キャッチフレーズをつけることで、教員が学校経営に参画することを引き出している。先進的な学校経営計画だと感じる。 ・キャッチフレーズを取り入れられてわかりやすく、センスがある。教員発で作られたことが素晴らしい。</p> <p>●ICT活用について ・地域の学校でも取り組んでいる。支援学級の児童が堪能に使こなしている。児童にとって有効だと感じる。 ・わが子も学習支援クラウドサービスについて楽しみにしている。学校でアルファベットを学習しているが、本人にアルファベットを書くことの難しさがある。書くことではない方法（キーボードを押すなど）をお願いして、対応してもらって感謝している。 ・興味深い実践と感じた。ICTは知的障がいのある子どもたちも含め、すべての人たちにとって、必要なツール。感覚にアプローチすることも重要。それとICTの活用をどう合わせていくのが大事。</p> <p>●PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）について ・保護者も活用できるように教えてほしい。母が学び、家でも使うことで、父、祖母も使うようになっていった事例もある。 ・保護者の方も利用したいという声があることが大事。学校では教員のツールという考え方がある。保護者もツールを活用できると、家庭地域において、子どもたちの自立につながっていく。</p> <p>●その他の取り組み ・寝屋川市の小中学校も3年ぶりのプール。当たり前のことを当たり前にできることが子どもたちの喜びになっている。本校での宿泊学習も子どもたちがとても楽しんでた。子どもたちの笑顔が戻りつつある。</p> <p>【第2回 11月21日】</p> <p>●取組み全体について ・多岐にわたる質の高い取組みである。支援学校はそれぞれに色があり、障がいの特質によるところがある。力を入れている所が見えてくるとポイントがわかり更に質が高まる。今後、何を軸にしていくか、キャリア教育をベースにどう展開していくか、どう特色を出していくか、寝屋川支援学校はどうしていくのか、子どもたちの将来像を見据えた実践的な取組みをしていく必要がある。PECSの活用、防災のテーマの想定、働き方改革など子どもの力にもつながっていく支援のツールになるので重要だと感じる。 ・寝屋川支援学校の「めざす学校像」の「一人ひとりの花を咲かせよう！そしてともに輝こう！」のキャッチフレーズは子どもの良さを伸ばしていく学校づくりが想像されてとても印象的である。支援学校卒業後の目標の位置づけを「自立」として、どうやって一人で生活をしていくのか、専門性を高めている寝屋川支援学校には支援の見本が兼ね備えてある。研修の充実性など様々な取組みを地域の学校も勉強させていただいている。</p> <p>●保護者との連携について ・保護者と教員とのコミュニケーション不足を感じる。通知表が連絡帳と変わりないように思う。キャリア教育プログラムに沿ったアセスメントを提示してもらおう方ができていること、できていないところが分かりやすい。 ・連絡帳について5cm四方のスペースに記述が少しで、何をしてもらったのかわからないこともある。連絡帳のデジタル化はできないのか。共通の文書はコピー&ペーストし、個人の特記は1、2行で済む。写真など掲載してもらえると様子がわかる利点がある。 ・長期休み中の学習支援クラウドサービスの取組みは、他の子どもの取組みが見られて良い。子どもが自分でいろいろ調べて「生活」の時間の新聞に写真を掲載したのはびっくりした。他の子どもも我が子と同じことに興味があることを知ることができて、今回のように目に見える取組みであると、保護者も先生方に感謝できる。保護者のことも気にかけてくれると嬉しい。</p> <p>【第3回 2月16日】</p> <p>●学校教育自己診断、保護者評価について ・寝屋川支援学校の先生が非常に熱心に取り組まれていて、教材研究もしっかりされている。そのようなところが保護者に伝わる仕組みを作れば良いのではないと思う。見えにくい環境にもある。 ・キャリア教育プログラム、シラバス、ペスク、ICT等に頑張っていることについては、保護者はほとんどわかっていない。保護者の評価は、普段の先生方の子どもとの関わりの様子から評価されているのではないと思う。 ・運動会・学習発表会についてのポイントが上がっているが、凝縮して見られたこと、場所などについても保護者としてはよかった。修学旅行についてその日のうちに何度も様子の写真を配信していただけてすごくよかった。</p> <p>●カリキュラム・マネジメントについて ・カリ・マネは重要という認識がある。個別の計画と教育課程の関連性など、教科横断的な部分でどう関連づけて、また学部を越えてどのように取り組むか。 ・教育課程では横帯の繋がりと縦帯の繋がりがあって、個別の計画との絡みをどのように追求していくか ・特別支援学校の教育課程は自由度のある時間割がこれまで取り入れられてきていた。学校の設置条件によっても時間割が変わってくることもある。 ・40分授業であれば、自閉症の生徒が見通しを持ちやすくなる。 ・高等部の生徒は連続した授業をした方がよいことがある。 ・学びの3観点について、文科省が知的障がい教育特別支援学校でも教科を定着させようとしている。学習指導要領の内容との絡みをどのように考えていくかが必要である。 ・学校として何かを軸にしていくことが大切になってくる。軸に合わせてその他が付随してくる。カリ・マネが軸になるのではないと思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (「 」内の太字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R3年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	<p>(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む)</p> <p>ア 正確なアセスメントを行う ＜小学部・支援部・担当首席＞</p> <p>イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う＜全校・支援部・担当首席＞</p> <p>ウ 児童生徒が自発的・主体的に学習できる環境づくりを行う ＜全校・支援部・指導教諭＞</p> <p>エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する＜全校＞</p> <p>オ 小中学部からのキャリア教育を推進する＜全校・児童生徒指導部＞</p> <p>カ 時間割・シラバスを再編する ＜全校・担当首席＞</p> <p>キ 小中高の「個別の指導計画」を統一様式に改訂する＜全校・担当首席＞</p> <p>(2) 時代にマッチした教育理論を構築する</p> <p>ア 「自立活動」を再考する ＜支援部・担当首席＞</p> <p>イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う ＜支援部・担当首席＞</p> <p>ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開する ＜全校・健康教育部・オンライン学習PT＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「児童一人ひとりを皆で理解しあおう！」 ・小学部で「太田ステージ」によるアセスメントを行い、児童の発達段階を共通理解するための1つの基準とし活用する。</p> <p>「明日を拓くキャリア教育プログラム！」 ・全校で「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、グループ編成等に積極的に活用する。</p> <p>イ 「コミュニケーションを広げよう！」 ・PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の導入を拡大し活用する。</p> <p>ウ 「子どものやる気スイッチON！」 ・児童生徒が「できる」教材の工夫を行うとともに視覚的支援(スケジュール・タイマーなど)により、自発的・主体的に学ぶ環境を整える。</p> <p>エ 「わかる・できる・ほめる！」 ・「ほめる」場面を作るために児童生徒が「わかる」伝え方、「できる」課題設定を行う。</p> <p>「～絆～小中高みんな仲間！」 ・児童・生徒会が同じ目標をもって活動する。</p> <p>「一人ひとりの輝く個性、認めて楽しく楽しい学校！」 ・人権学習や交流学習を通して、自分や他者の良さに気づき、よりよい人間関係を築く。</p> <p>「そうだ、先輩に聞こう！」 ・他学部と自立活動等で交流を行い、一緒に活動を行う中で共に学ぶ機会を設ける。</p> <p>カ 「確かな学力・豊かな心・健やかな体・育む寝屋川！」 ・学習指導要領に示された力を育成するために、時間割・シラバスを再編成する。</p> <p>キ 「neyagawaの「個別」は一つ！」 ・小学部・中学部・高等部の様式を改訂して統一し、全校で一貫した指導につなげる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「支援教育の基礎は自立活動！」 ・「自立活動」を基礎から学びなおすとともに「全体の指導」を意識した授業を行う。</p> <p>イ 「言動の前後にも注目！」 ・指導・支援に応用行動分析の視点を取り入れる。</p> <p>ウ 「どこからでも参加できる!話せる!学べる！」 ・双方向の学習・懇談等をオンラインで行う。</p> <p>「いつでも知れる!学べる！」 ・臨時休業対応オンデマンド動画を作成する。</p> <p>「限られた中で最大限の力を！」 ・これまでの行事等を見直す。</p> <p>「普段の頑張りを保護者に！」 ・令和4年度は運動会を学部別で開催する。</p>	<p>中期的目標全体 「指導方針に共感」90%以上</p> <p>(1) 学校教育自己診断の保護者評価 「障がい理解」90%以上維持[91%] 「授業は楽しい」78%以上[77%]</p> <p>ア ・小学部において太田ステージのアセスメントを継続実施。小学部教員に向けての研修1回以上実施。1年生のグループ分け指標として活用。</p> <p>・全校における「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを継続実施。</p> <p>イ ・PECSに関する研修を2回以上実施。中3から高1へPECS活用生徒の支援方法について引継ぎを行う。小学部で「ブック」の使用場面・場所を広げる。</p> <p>ウ ・初任者・10年経験者による自発的・主体的に学ぶ環境づくりをサブテーマとした研究授業の実施。(対象者全員)</p> <p>エ ・各授業において、各児童生徒のほめの場面5回以上(校長の授業観察時及び研究授業の振り返り時に確認)</p> <p>オ 各取組みにて、先輩の姿を見た後輩から「あなりたい」との感想を得る。 ・児童会・生徒会とともに全校行事のスローガンを作成する。</p> <p>・小学部(人権学習各学期1回) ・中学部(人権学習年1回、交流学習各学年年2回以上) ・学期に1回以上、学部間で交流する。</p> <p>カ ・時間割は令和5年度の試行実施・6年度の完全実施に向けて完成させる。シラバスは令和4年度より新様式にて実施。</p> <p>キ ・統一した「個別の指導計画」の様式完成。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・「自立活動」に関する全校研修1回 北河内支援学校4校の自立活動実践動画視聴 [R3 自立活動の基礎基本講座]</p> <p>イ ・応用行動分析に関する全校研修1回 先進的に取組んでいる支援学校教員による実践講座 [R3 臨床心理士による理論講座]</p> <p>ウ ・双方向のオンライン学習・懇談の実施体制を整備する。</p> <p>・児童生徒視聴用動画の新規作成30本。</p> <p>・「運動会」「学習発表会」「学習展示会」の実施時期と内容について検討。</p> <p>・感染防止対策を講じた実施。</p>	<p>中期的目標全体 「指導方針に共感」89%(△)</p> <p>・「障がい理解」87%(△) 「授業は楽しい」75%(△)</p> <p>・全児童対象に太田ステージのアセスメントを実施。新転任教員全員と希望する小学部教員に向けて、研修を実施。教科学習のグループ分け指標としてや、個に応じた学習課題設定時に活用した。(○)</p> <p>・小中は個々の実態を担任間で共通理解するツールとして活用している。全ての児童へ実施済み。 高は2年次より実施コース制授業のグルーピングに向け、活用方法やグルーピング基準の共有を行った。 3学期にグループ決定実施。(○) ・夏季に研修を2回実施。1回目2回目ともに約92%の満足度。 小学部では抽出指導とワークショップを受けた教員を中心に全学年で使用している児童がいる。12月末に小学部研修で実践を報告。 中3→高1引継ぎ済み。高1教員1名PECS講座受講済み。(○) ・10年等の経験者による授業研究の際に自発的・主体的な学びを意識した授業づくりを実施。また全教職員へ向けて「授業ダイジェスト」「研究協議まとめ」として研究協議で検討した内容を知らせた。(○) ・研究授業における環境設定、目標設定を授業者とともに検討及び実践した。授業観察でも確認できた(○) ・児童生徒からは先輩に対する尊敬や感謝に関する言葉が聞けた(○) ・小、中、高の児童生徒会の役員で運動会のスローガンを考え、作成した。(○) ・各学部、人権学習、交流学習を実施した。(○)</p> <p>・小学部中学部高等部間で職業科(高・中)生活科(小)等の教科で交流を実施した。(○) ・令和5年度新時間割完成。新様式にてシラバスの運用ができた。(○)</p> <p>・様式が完成した。(○)</p> <p>・それぞれの研修をすべて実施した。(○)</p> <p>・夏季に研修を実施。約92%の満足度。(○)</p> <p>・夏季冬季休業中に学習支援クラウドサービスを用いて家庭と学校を繋ぎ、オンラインでの近況報告を実施した。(○) ・新型コロナウイルスの感染状況から、各学年の作成に関しては1本ずつとしたが、動画配信サービスに動画をアップした。(△) ・「運動会」の1学期実施に伴い、競技内容等について見直しを行った。「学習発表会」については、舞台発表の学年・動画発表の学年を設定し、新しい形で実施することを決定した。「学習展示」は、3学期の懇談等に合わせて各学年等で掲示を行う。(○)</p> <p>・3週にわたり、部毎に実施した。</p>

	<p>エ ICTを活用した取組みを推進する 〈全校・情報教育部・GIGAスクールPT〉</p> <p>オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する 〈視聴覚教育部〉</p> <p>カ 防災に努める 〈児童生徒指導部・担当首席〉</p> <p>(3) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める 〈全校〉</p> <p>イ 経験の少ない教員を支援する 〈部主事、指導教諭〉</p> <p>ウ 将来の管理職候補を育成する 〈校長〉</p>	<p>「安心・安全なプール学習！」 ・感染防止対策を講じてプール学習を実施。</p> <p>エ 「GIGAを使って授業をもっとアクティブに！」 1人1台端末を活用した教育の推進。</p> <p>「ネヤ・ギガ・どや！」 ・教員のICT活用スキルを向上させる。</p> <p>「kiki(機器)×kiki(危機)」 ・ICT関連機器を適切に管理する。</p> <p>「life ラリー ライブラリー！」 ・卒業後の余暇活動につながる読書教育を推進する。</p> <p>カ 「安全は一人ひとりの気づきから！」 ・BCP(事業継続計画)を活用した防災研修・防災訓練を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア 「磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！」 ・体罰、不適切な指導等の防止に努める。</p> <p>イ 「他学部を知ろう！」 ・初任者及び希望者が所属学部以外の学部の児童生徒の指導支援を行う機会を設ける。</p> <p>ウ 「学校経営って楽しい！」 ・学校経営の魅力を伝える機会を設定する。</p>	<p>・プール学習を実施する。</p> <p>エ ・学校教育自己診断の保護者評価に「1人1台端末の活用」の項目を新設する。肯定的評価 70%。</p> <p>・スキルの段階別研修を年1回実施。(アンケートで「ためになった」80%)</p> <p>・管理台帳(10万円以下)の作成。</p> <p>オ ・図書委員会の新設。</p> <p>・書籍の入れ替え(新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%)</p> <p>カ ・通行困難区域を増やすなど、さらに実際の災害を想定した避難訓練実施2回。</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教職員評価 「初任者、経験の少ない教職員の育成」65%以上[63%]</p> <p>ア ・体罰・不適切な指導を起させないための人権研修を年1回実施。</p> <p>イ ・十分な準備のもと、他学部の初任者等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う。年1回</p> <p>ウ ・「スクールリーダー養成講座」を開講する。年1回</p>	<p>(○)</p> <p>・入水前後のシャワーの人数制限や向きの指導、授業の枠を午前午後各1回ずつにして時間的余裕をつくるなどの感染症対策を講じ、プール学習を実施した。(○)</p> <p>・「1人1台端末の活用」40%(△)</p> <p>・研修を1回実施「ためになった」70%強。オンライン研修等の紹介を定期的実施した。(△)</p> <p>・管理台帳を作成した。(○)</p> <p>・図書委員については児童生徒会と相談し、新設する案を見送り、今年度同様これからも図書係の仕事を児童生徒会役員の中での担当に変更。(△)</p> <p>・古い書籍の廃棄(50冊程度)新規書籍の購入(学校予算で30冊、寄贈で5冊)約8%入れ替え購入リスト、寄贈リストの作成完了(△)</p> <p>・「机上訓練」「初期対応シミュレーション」の実施後、避難訓練を行った。封鎖箇所を増設、避難する時間帯を伝えないかたちで実施した。(○)</p> <p>「初任者、経験の少ない教職員の育成」70%(○)</p> <p>・密を避けクラス単位で実施した。結果を全校で共有した。(○)</p> <p>・学部間を入れ替わり、他学部の教育活動を体験する機会を設けた。1月実施(初任者9名・希望3名)(○)</p> <p>・8月に実施。管理職4人が「やりがい」について講話した。3人の参加があった。(○)</p>
<p>2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める</p> <p>ア 年度の早期に信頼関係を構築する 〈全校〉</p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る。 〈全校〉</p> <p>ウ 保護者から学ぶ 〈全校〉</p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する</p> <p>ア あいさつ運動を展開する 〈児童生徒指導部〉</p> <p>イ きれいな地域づくりに貢献する 〈児童生徒指導部〉</p> <p>ウ 就学前施設と連携する 〈小学部〉</p> <p>(3) よりわかりやすくスピーディーな</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「グッドスタート！」 ・年度当初は、連絡帳・電話・家庭訪問・懇談会等を通じた日々の情報交換を特に丁寧に行う。</p> <p>イ 「ようこそ、相談室へ！」 ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。</p> <p>ウ 「保護者に教えてもらおう！」 ・「児童生徒を最も理解しているのは保護者である」との再認識のもと、保護者に教えていただきながら本人の指導・支援を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 「マスクがあっても心で通じる ～つながる気持ち～」 ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣を身につけ、朝の散歩等の校外での学習に際して、積極的に挨拶を交わし、お互いの理解を深める。</p> <p>イ 「みんなでピカピカ楽しくピカピカ 心はボカボカ！」 ・寝屋川公園の清掃活動を行い、きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める。</p> <p>ウ 「ともに学びましょう！」 ・あかつき・ひばり園と、園児児童生徒の指導支援について情報共有を行う。</p> <p>(3)</p>	<p>中期的目標全体 保護者評価全体の平均 85%以上</p> <p>(1)</p> <p>ア ・教職員に対し、年度当初の保護者との連携に関する意識調査を1学期末に実施 肯定的評価 80%以上</p> <p>イ ・それぞれの相談会を学期に1回以上実施。</p> <p>ウ ・懇談会・家庭訪問の実施 懇談会・家庭訪問時に、より丁寧に聞き取りを行う。 学校教育自己診断の保護者評価 「子どもの障がい理解」 肯定的評価 90%以上維持[91%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の保護者評価 「地域との交流」 肯定的評価 65%以上[63%]</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施各学期1回</p> <p>イ ・各学期1回実施(中学部・高等部)</p> <p>ウ ・情報共有各学期1回実施</p> <p>(3) 学校教育自己診断の保護者評価 「わかりやすい情報発信」</p>	<p>中期的目標全体 保護者評価全体の平均 82%(△)</p> <p>(1)</p> <p>・1学期末に意識調査を実施した。肯定的評価 86%(○)</p> <p>・小児発達は校長マネジメントに予算を計上して実施。 精神科相談を5回、発達相談を3回実施済み。毎回5～6件程度の申し込みあり。今年度から担任も同席する回を設定した。(○)</p> <p>・家庭訪問、懇談会では、保護者との貴重な面談となるため、丁寧に聞き取り、内容を学年・クラス担任と共有。日頃より連絡帳や電話連絡で、児童について情報を共有し、支援方法を考えている。また必要に応じて不定期で、懇談会や家庭訪問を実施し、より保護者・本人に寄り添った支援を行えるようにした。 「子どもの障がい理解」87%(△)</p> <p>・「地域との交流」73%(○)</p> <p>・修学旅行等に向けて、実行委員を設定し、外部の人に対する挨拶の仕方を学習すると共に、毎日実施することで、元気に挨拶する姿が見られた。プラカードを使っての挨拶も実施した。(○)</p> <p>・学校付近の清掃、寝屋川公園の落ち葉拾いや花の苗植えを行った。(○)</p> <p>・新入生について、引継ぎを実施。 ・あかつき・ひばり園の職員・保護者対象に、本校の見学会を実施(年間4回)。本校での指導支援について、児童の様子について情報共有を行った。(○)</p> <p>・「わかりやすい情報発信」94%(○)</p>

	<p>情報発信を行う</p> <p>ア ぼかしなしの情報発信を行う 〈全校・情報教育部〉</p> <p>イ 通学バスの位置情報を提供する 〈バス部〉</p>	<p>ア 「笑顔こんなに はじけてる！」 ・本人・保護者了解のもとで、ぼかしなしの児童生徒の活動風景・作品等の情報発信を行う。 (年度初めにアンケート実施)</p> <p>イ 「安全第一～SAFETY FIRST～！」 ・見守りソリューションシステムを導入する。</p>	<p>肯定的評価 90%維持[94%]</p> <p>・ぼかしなしの情報発信を継続。</p> <p>・見守りソリューションシステムを導入し運用する。</p>	<p>・ブログにぼかしなしの活動風景の掲載を継続し、保護者から「生き生きした表情が見れてよかった」との声をいただいた。(○)</p> <p>・通学バス運行開始前に、アプリを用い、位置情報を確認して保護者に情報提供できた。また、アプリの不具合などで位置情報が表示されていない場合、通学バスへ連絡し、再起動を依頼することで保護者へ正常な位置情報を提供することができた。(○)</p>
<p>3 働き方改革</p>	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う</p> <p>ア 適材適所の人事配置を行う 〈校長〉</p> <p>イ 学びあう雰囲気を作り出す 〈全校〉</p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う</p> <p>ア デジタル化を推進する 〈全校・担当首席〉</p> <p>イ ペーパーレス化を推進する 〈教務部〉</p> <p>ウ 物品の管理・整理方法を見直す 〈全校・部主事〉</p> <p>エ PC内の構造化と仕事の見える化を行う 〈全校・部主事〉</p> <p>オ 評価の記載や確認の効率化と話し合いの充実化を図る 〈小学部〉</p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する 〈全校〉</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する</p> <p>イ 校務分掌の配置人数を見直す 〈校長〉</p> <p>ウ 各部署が学校経営を自律的に行う 〈全校・各部署〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「得意分野での力の発揮で、互いにリスペクト！」 ・これまでの実績を参考にしつつも「やってみよう」という気持ちを大切にする人事配置を行う。</p> <p>イ 「寝屋川サロン open！ ～学ぶって楽しい～」 ・教員同士の学びあいの場を作る</p> <p>(2)</p> <p>ア 「ラク(楽)してはたらく、システムづくり！」 ・「グループウェア」や「表計算ソフト」の活用を検討し、活用を全校的に進める。</p> <p>イ 「ペーパーレス化で、神(紙)ですか?!」 ・資料の印刷・配付といった無駄な仕事を減らす。</p> <p>ウ 「もったいない! 大事に使おう! 使うモノへ！」 ・学校備品・教材備品の管理と整理整頓を行い、業務の効率化に資する。</p> <p>エ 「仕事サクサク・効率アップ！」 ・PC内のフォルダを構造化するとともに、各部署の仕事内容をフローチャート化する。</p> <p>オ 「話して伝えよう。その時間を作ろう！」 担当者間等で話したり共有したりする時間を作るため、評価の記載や確認については効率化を行う。評価は短く簡潔に記載し、その分、保護者と様子を話し合っ共有できるようにする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 「鍋蓋型からピラミッド型へ！」 ・各首席が2つずつの校務分掌を統括する体制を整える。</p> <p>イ 「行事の時だけ?それとも通年? 総合的に配置しなします！」 ・業務量を総合的に把握し、配置する。</p> <p>ウ 「自主自律の学校経営を！」 ・学校経営計画にそれぞれの項目の「推進部署」を明記し、PDCAサイクルに基づき計画を推進する。</p>	<p>中期的目標全体 「業務の効率化・平準化」65%以上</p> <p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断の教職員評価 「適正配置」55%以上[49%]</p> <p>イ ・「授業データベース」の活用を推進する 学校教育自己診断の教職員評価 「授業方法等の検討」60%以上[56%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の教職員評価 「業務の効率化・平準化」 肯定的評価 60%以上[58%]</p> <p>ア ・「グループウェア」や「表計算ソフト」の活用を広げる。</p> <p>イ ・会議資料等のドライブでの保存・共有・蓄積を推進する。</p> <p>ウ ・保管方法を統一し、リスト化とラベル付けを実施する。</p> <p>エ ・PC内はカテゴリーごとにナンバリングする。各部署でフローチャート図を作成する。</p> <p>オ 「文例集」の作成。(2年間かけて完成)</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教職員評価 「業務分担と学校経営への参画」 肯定的評価 55%以上[49%]</p> <p>ア ・各首席が2つの校務分掌を統括。</p> <p>イ ・人数の再配置。</p> <p>ウ ・管理職が各部署の担当者に対し、推進計画ヒアリング、進捗ヒアリング、達成ヒアリングを実施する。またその様子を各部署でビデオ共有する。</p>	<p>中期的目標全体 「業務の効率化・平準化」58% (△)</p> <p>・「適正配置」49%(△)</p> <p>・「授業方法等の検討」62%(○)</p> <p>・「業務の効率化・平準化」58%(△)</p> <p>・専用ポータルサイトを運用、教職員向け情報の集約・発信を行う。(○)</p> <p>・実験的に教務部会の資料はデータ配信。教務からの校内全体連絡もデータ化。これに伴い、様々な会議でペーパーレス化が進んだ。(○)</p> <p>・学期末に学部共有備品と学年管理備品の整理、点検を実施。保管場所を管理者のリスト化した。新規購入備品にはラベル付けを行い、管理者・管理場所を明確にした。職員室の整理整頓もを行い、年間を通して、職員室内の不要物品53.4Kgの処分を行った。(○)</p> <p>・大元となる校内組織図は完成。フローチャートは次年度からの運用に向け、インターネットモード、セキュリティモードのデータを仕分けしてから作成(○)</p> <p>・学校全体で統一した個別の指導計画の様式が完成。記入の仕方等のマニュアルを作成した。マニュアルに合った評価の記載の仕方や評価文例等について、支援部と連携して作成を進めている。(○)</p> <p>・「業務分担と学校経営への参画」49%(△)</p> <p>・2分掌を統括し、分掌長と適宜連携を図り、業務を推進した。(○)</p> <p>・人数のみならず、分掌組織を改編した。(◎)</p> <p>・各ヒアリングを実施し、ビデオ撮影を行った。セキュリティモードに保存完了。ビデオ共有について職員会議で周知した。(○)</p>

4 地域支援	<p>(1) 北河内支援学校相談サポートセンター(KSC)による「研修サポート」を行う <支援部、L.S.> ア 「支援教育公開講座」を行う イ 研修講師の派遣を行う</p>	<p>(1) ア 「学びのイエとこどり！」 北河内の支援教育コーディネーターが連携・協働して、夏季休業中に地域のニーズに合わせた「支援教育公開講座」を開催する。 イ 「夢中になれる学びの場！」 市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p>	<p>中期的目標全体 「訪問相談・来校相談アンケート」90%以上</p> <p>(1) ア 5講座を開講する。感染症の状況によっては、WEBによる形で開催し、実施後のアンケートで研修内容の肯定的評価 95%以上維持[95%] イ すべての要請に対応する [支援回数 56回(訪問・来室・電話相談、研修講師)]</p>	<p>中期的目標全体 「訪問相談・来校相談アンケート」今年度より教育庁からのアンケートがなくなったため評価なし。</p> <p>• 申し込み数約 400名。 満足度 97% (○)</p> <p>• 支援回数 60回実施 訪問相談：29回 研修講師：25回 電話・来室相談：3回 その他(検査器具貸出)：3回 全ての要請に対応した(○)</p>
	<p>(2) 北河内支援学校相談サポートセンター(KSC)による「相談サポート」を行う <支援部、L.S.> ア 悩みを共有し「KITADE」を活用しながら実践のサポートを行う</p>	<p>(2) ア 「支援の輪を広げよう！」 ・就学前施設への支援を充実させる。特に私立幼稚園への定期的な支援により合理的配慮を浸透させる。 「社会へ羽ばたく力をつけよう！」 ・支援教育サポート校と連携し、高等学校(含私学)等への相談支援を進める。</p>	<p>(2) 相談実施後の「訪問相談・来校相談アンケート」における肯定的評価 90%以上維持[90%]</p> <p>ア ・就学前施設(含私学)への相談支援・研修等を3回以上、実施する。 ・高等学校(含私学)への相談支援・研修等を2回以上、実施する。</p>	<p>• 今年度より教育庁からのアンケートがなくなったため評価なし。</p> <p>• 公立幼稚園 1回(相談) 私立幼稚園 3回(相談)(○)</p> <p>• 相談1回 研修1回 * 高等学校支援教育サポート校の枚方なぎさ高等学校と連携して実施(○)</p>
	<p>(3) 学校全体で地域支援を行う <L.S.、全校> ア 「登録相談員」による地域支援を行う</p>	<p>(3) 「マンパワーの地域支援！」 ア 開設した「登録相談員」制度を用いて、校内の教員の得意分野等に基づいて、情報提供や実際の相談等をリーディングスタッフとともに行う。</p>	<p>(3) ア 年5回以上、登録相談員による相談を行う。</p>	<p>• 夏季休業中に1名(研修講師に同行【2回】)実施(△)</p>